桶川にゆかりの武蔵武士

足立遠元（あだちとおもと）　前編

～実はこの人、鎌倉殿を支えた13人の合議制の1人なんです～

詳しくは➡生涯学習文化財課☎788－4971
歴史民俗資料館　☎786－4030

鎌倉幕府を支えた13人の家臣団に「足立遠元」という人物がおり、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」（NHK）にも登場します。皆さんは足立遠元が桶川にゆかりがあることをご存知でしょうか。

前編・後編の2回にわたり、足立遠元についてご紹介します。

足立遠元と足立氏について

足立遠元は鎌倉時代初期の武蔵国（むさしのくに）（現在の埼玉県、東京都、神奈川県の一部）の武士です。鎌倉幕府を創設した源頼朝（みなもとのよりとも）の御家人（ごけにん）で、13人の合議制の一人として幕府の重臣（じゅうしん）となりました。平安時代末期の生まれと考えられますが、生没年ともに不明です。

『足立氏系図（あだちしけいず）』によると遠元は、藤原北家（ふじわらほっけ）の家系で、父は藤原遠兼（ふじわらとおかね）という人物です。遠兼は関東の武蔵国（むさしこく）府（ふ）の役人として京都から下向した官人で、在地の有力官人であった秩父（ちちぶ）氏（し）の流れをくむ豊島康家（としまやすいえ）の娘と結婚しました。そこに生まれたのが遠元です。後に遠元は、豊島氏をとおして足立郡司（あだちぐんじ）を継承したと伝わり、その職に因んで「足立」を姓とし「足立遠元」と名のりました。これが足立氏の始まりです。足立氏は、父祖代々より足立郡に生まれ土地を開発した地元の豪族ではなく、関東に下った京都の官人の子孫が武蔵武士として土着した家系であるといえます。

足立氏系図　参考「足立氏系図」

- 藤原遠兼—遠元
  - 守長
  - 元春—遠親
    - 基氏—遠氏—基舒—遠宣
    - 直元
  - 元重（号淵江田内）
  - 遠光
    - 遠春
    - 遠政—政基
  - 遠景（号安須吉）
  - 遠村（号河田谷）
  - 遠継（号平柳）
  - 盛長（藤九郎）
  - 女子＝畠山重忠
  - 女子＝北条時房

一本杉（昭和中頃）

足立氏家紋

足立遠元の館が桶川にあった?!

遠元と桶川との関係、それは、遠元の館があったという伝承地がここ桶川にあるということです。遠元が治めていた足立郡は、現在の行政域に照らすと、鴻巣市・北本市・桶川市・伊奈町・上尾市・さいたま市・戸田市・蕨市・川口市・草加市・東京都足立区にわたる広大な範囲でした。このうち遠元の館跡と伝わる場所は4か所あります。1か所はさいたま市西区内で、残りの3か所が桶川市内にあります。

三ッ木城跡図

3か所のうち一つは、川田谷の三ツ木城跡、一つは神明1丁目の諏訪雷電神社東側付近、もう一つは、末広2丁目の総合福祉センター付近です。ただし、いずれの地も決定的な資料は見つかっておらず、残念ながら伝承の域を出るものではありません。

遠元の館跡として最も有力視されているのが末広2丁目の総合福祉センターがある一帯。かつて地元で「一本杉」と呼ばれた場所です。江戸時代の文化・文政期に江戸幕府が編纂（へんさん）した「新編武蔵風土記稿（しんぺんむさしふどきこう）」の桶川宿の項にも、遠元館と伝わる地として記述されています。

現在の三ッ木城跡

昭和30年頃まで、ここには、一本の杉の老木がそびえ立ち、幅1m前後の水堀と一本杉の東南方向に深さ2mの堀が存在し、館の伝承地の面影を偲ばせていました。しかし、宅地化などのため堀は埋め立てられ、一本杉も切り倒されてしまいました。

現在はこの一本杉があった付近に遠元館跡を示す碑が建てられ、古の伝承を今に伝えています。そして、この地は旧跡（きゅうせき）として桶川市指定の文化財に指定されています。

現在の諏訪雷電神社

鎌倉幕府創立期に存在感を示した足立遠元と足立氏については、在地勢力としての資料や伝承が極めて少なく、その多くが謎に包まれているのが現実です。有力御家人にも関わらず資料が乏しいのは、東国武士団の中でも異例のことです。しかし、限られた情報の中でも遠元について は公の場での記載が多く、時の権力者たちから厚い信任を受けた人物であったことは確かだと考えられます。

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の劇中でも、俳優の大野泰広さん演じる足立遠元が登場します。この謎多き武将が、三谷幸喜さんの脚本によってどのような人物に描かれるのかも楽しみの一つですね。

遠元館跡を示す顕彰碑（総合福祉センター地内）

後編は、広報おけがわ4月号で紹介します。